

第42回九州芸術祭文学賞（九州文化協会主催）の各地区優秀作が決まり、熊本地区の優秀作には阿蘇市の福祉施設代表、宮本誠一さん（50）の小説「蓬萊」が選ばれた。次席は野口圭さん（62）（熊本）の「空蟬」（空蟬）だった。

同賞は九州・沖縄在住者が対象。九州各県と福岡市、北九州市の10地区に分け、各地区の選考委員がそれぞれ優秀作を選ぶ。今回の応募作は266編で、熊本地区には19編が寄せられた。

各地区の優秀作10編を五木寛之、秋山駿、村田喜代子、田中光子の4氏が最終選考し、最優秀作

九州芸術祭文学賞

熊本地区優秀作に 宮本さん（阿蘇市）

を決める。発表は来年1月末ごろの予定。

宮本さんの「蓬萊」は、妻と2人の幼子がいながら、体調などから理由に退職を考えている会社員が主人公。周囲の人々との出会いの中で、働くことの意味や人生の価値を模索する。

題名の「蓬萊」とは「中国の伝説にある仙人が住む島で、追い求めても行き着かない場所」と宮本さん。「幸せとは何か、問い直したい」という気持ちで書いた。大震災のことは一字も出てこないが、念頭に置いた」と話した。